

金井雅之ゼミ卒業論文講評

現代社会の計量的実証研究を中心とするゼミナール

担当 金井雅之

金井ゼミは、現代社会の諸問題の計量的実証研究を目指して2010年4月に発足した。今年度提出された1本の卒業論文は、その第2期生によるものである。

鈴木敦史「テキストマイニングによるスマートフォンのマーケティング分析——売り手の販売戦略と買い手の意識のずれ」は、近年急速に普及しつつあるスマートフォン市場における、売り手（通信事業者・メーカー）の販売戦略と買い手（ユーザー）のニーズとのずれを、インターネット上に掲載されたテキストデータを統計的に分析することにより明らかにしたものである。

分析の対象は、製造メーカーに多様性のあるAndroid搭載のスマートフォンのうち、NTT Docomoが2011年に発売した23機種である。売り手側のデータとしてNTT Docomoのプレスリリースを、買い手側のデータとして価格.comのレビュー欄への書き込みのうち、各機種発売日直後3,000字分のテキストを使用した。

分析はまず、機種ごとに出現頻度上位5個の形態素を、売り手側、買い手側それぞれで意味的に分類して比較した。その結果、売り手側には新機能をアピールする単語が多いのに対して、買い手側には基本的な機能を重視する単語が多いことがわかった。

つぎに、機種の上位10形態素を用いて、売り手側、買い手側それぞれで、機種と形態素との対応分析をおこなった。その結果、上述の形態素の意味的な分類が対応分析においてもおおむね妥当であることが確認され、さらに機種の分布との対応から、多くの機種で売り手は新機能を重視するが買い手は基本機能を重視していることが裏付けられた。

この論文の最大の価値は、膨大なテキストデータを時間をかけて根気よく分析した努力にあ

る。分析に使用したテキストはインターネット上に存在するものなので自分で入力したわけではないが、これだけ多くの機種のデータを適切にコピー&ペーストするのはそう簡単ではない。さらに、それをRで分析するためには膨大な行数のコードが必要であり、バグをなくして正しい分析結果を出すための苦労は並大抵ではない。これらをすべて一人でこなした根気と努力を多としたい。